【国際学科　英語基礎学力型】

［Ⅰ］

［1］	その販売価格は，オークションで販売されてきたノーベル賞の記録を塗り替えた。			
［2］	政府による重圧に直面しながらも，ロシアでの言論の自由の保護に努めたから。（36 字）			
［3］	(1)	(2)	(3)	(4)
	b.	c.	d.	d.
［4］	1.	2.	3.	4.
	c.	c.	c.	d.

［Ⅱ］

1.	2.	3.	4.
b.	c.	b.	d.
5.	6.	7.	8.
c.	d.	d.	a.

［Ⅲ］

1.	2.	3.	4.
b.	c.	d.	d.
5.	6.	7.	8.
b.	a.	d.	a.

［Ⅳ］

「社会的割引率は、将来世代に負担を残すことを本当に正当化するのだろうか」という問いかけに対して、私は「正当化しない」と答えたい。その理由は２つある。

第１の理由は、社会的割引率という考え方に納得がいかないからだ。課題文によれば「将来の利益や費用は、現在のそれらより割り引いて捉えるべきである」と説明されており、具体例として「現在の 10,000 円は１年後の 9,600 円と同等の価値である」とある。私は、親や学校の先生から「昔は月給が数万円の時代があった」ということを聞いたことがあるので、貨幣の価値が時代によって変わるのは納得できる。だが、課題文の「今年の 8 人の命の重さは、400 年後の１億人の命の重さとだいたい同じになる」という具体例については「どこかおかしい」と感じる。経済学者は「公式にもとづいて計算すればそうなるのだ」と言うのかもしれないが、時代によって人の命の価値が変わるという考え方は人命尊重の倫理に反している。

第２の理由は、社会的割引率という考え方は「想像力の射程」が短いと思うからだ。本文中でも指摘されているとおり、社会的割引率という概念は「生涯会うことのない将来のひとびとへの配慮の度合いは、自分の親や子ども、身近なひとたちへのそれよりも少なくて当然だという素朴な直感と整合的」ではある。しかし、「『社会的割引率』にもとづけば、遠い将来世代への影響と責任を低く見積もることは道徳的に正当化されるのだ、と主張する論者たち」は、将来世代の苦しみに対する想像力が不足しているとも考えられる。社会的割引率の概念は短期的な現象の説明には有効でも、長期的な予測にあてはめると人類の存続にとって危険なのではないだろうか。

以上で述べたように、私は社会的割引率の考え方自体に疑問がある。よって、社会的割引率は将来世代に負担を残すことを正当化できないと考える。（777 字）